

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 北九州市立一枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級であるため、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

北九州市立一校 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科:平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・話す・聞く能力と読む能力の正答率が、高い。 ・書く能力の正答率が、低いことが課題である。今後は、課題解決に向けて、作文を書かせる機会を多く設定したり、他教科の授業においても自分の考えを書かせたりする活動を充実させる。
	よくできた問題	話の内容に対する聞き方を工夫する問題の正答率は、高かった。
	努力が必要な問題	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く問題の正答率は、低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的によくできていた。 ・A問題では、書く能力が低く、課題が見られたが、B問題では、設問によっては書く能力の高さが見られるところがあった。
	よくできた問題	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題は、他の問題の正答率に比べて低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・図形についての知識・理解の正答率が、いくつかの設問において低かった。図形の性質については、朝自習等で復習を行う必要がある。
	よくできた問題	除数が整数である場合の分数の除法の計算の正答率は、100%だった。
	努力が必要な問題	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択する問題は、正答率より低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的にはよくできていた。領域別に見ても、四領域全てにおいてよくできていた。普段の学習の成果が生かされていると思われる。
	よくできた問題	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題は、正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	・「知識」に関する問題は、できていたが、「活用」に関する問題は、やや力不足であった。
	よくできた問題	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	顕微鏡の適切な操作方法が選択する問題は、正答率が低かった。

③ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童の割合が全国に比べて高い。今後も、すべての教科において、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業を実施する。

・読書が好きと答えている児童が全国と比べて高い。そのため言葉の意味など言語事項についての正答率が高く、読む能力も高い。

・算数の学習が好きと答えた児童の割合が全国に比べて高い。そのため、問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える児童の割合も高くなっている。

・理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童の割合が全国に比べて低い。今後は、導入や事象提示の工夫を行うことで理科に対する興味関心を高めるとともに、理科学習で学んだことが日常生活の中に生かされていることを実感できるような授業を展開する。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・家庭学習を1時間以上している児童の割合は、全国に比べてかなり高い。
- ・自分で計画を立てて勉強している児童の割合は、全国に比べて高い。宿題をきちんとしている児童の割合も全国に比べて高い。
- ・予習をしている児童の割合は、全国に比べてやや低い。復習をしている児童の割合は全国に比べて高い。
- ・家庭学習の習慣は定着してきているが、内容については宿題が中心である。今後は、今年度作成した「一枝小学校 家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭とも連携を取って家庭学習の充実を図る。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・自分には、よいところがあると思う児童の割合が全国に比べて高い。このことから、児童の自己肯定感(セルフイメージ)が高く、ものごとを最後までやり遂げたり、失敗を恐れずに挑戦したりする児童が育ってきていることがうかがえる。
- ・テレビ等の視聴時間やゲーム、携帯電話、スマートフォンの使用時間が、全国に比べて長い。家庭で使い方について保護者とも連携を取りながら指導を行う必要がある。また、使用状況から考えて、ネットによるトラブル防止のための啓発を行う必要がある。
- ・学校のきまりを守っていると回答した児童の割合が、全国に比べて高いことから、家庭でも規則正しい生活を送っていることがうかがえる。「早寝・早起き・朝ごはん・読書」を今後も推奨していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上に関する職員会議及び学力向上委員会の定期的な実施
 - ・各学年の学力向上プランの見直しと重点的に取り組む内容の検討を行う。
- 学力向上に向けた教職員の実践
 - ・算数科における習熟度別指導を含む少人数指導の充実を図る。
 - ・「聞く」「書く」「話す」など基本的な学習態度を育む授業への改善を図る。
 - ・「機械的な計算」「解法の手順を覚える」授業から意味理解の伴った授業への改善を図る。
 - ・解決にたどり着く過程(問題解決の過程)を重視する授業への改善を図る。
- 「書く」ことを習慣化
 - ・自分の考えをノートに書いたり、学習の振り返りの時間に感想や学習日記を書くようにさせる。
 - ・毎月各学級から児童の参考となるノートを一部選び、コピーしたものをパウチして展示する。(11月より実施)
- 小中一貫・連携教育推進による取り組み
 - ・小中連携サポーターを計画的に配置し、授業の補助や学習プリントの整備にあてる。
- 学力向上のための朝自習(15分間)の取り組み
 - ・月曜日:音読タイム、水曜日:算数タイム、木曜日:読書タイムを全校一斉に実施する。
- 冬季・学年末休業日中における過去問題、アシストシート、WEB問題の取組
 - ・新学期に、朝自習等の時間を使ってで答え合わせ、解説、やり直しを行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・宿題の定着を図るため、宿題のパターン化を図る。
 - ・保護者の意識を高め、協力を得るために「一枝小学校 家庭学習のすすめ」を加筆、修正する。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- 早寝・早起き・朝ごはん・読書運動の推進
 - ・児童が学習する環境を家庭でもつくるように啓発を行う。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便りと学校HPで公開する。
- 保護者地域との連携強化
 - ・地域行事への積極的な参加を図る。